

# 日常生活に不可欠な“水”の安定供給を支える

## 水まわりの総合メーカー

### SANEI 株式会社

SANEI



本社外観（大阪市）



#### SANEI 株式会社

代表取締役社長：西岡 利明 氏  
 本社：大阪市東成区玉津1-12-29  
 創業：1954年（昭和29年）  
 従業員数：741名  
 事業内容：給排水器具等の製造販売  
 URL：<https://www.sanei.ltd>

1954年創業のSANEI株式会社は、「人類ある限り水は必要である」を理念に、水の提供口である水栓にとどまらず、建物内の給水・排水の環境をトータルにプロデュースし私たちの生活を支えています。水という貴重な資源を持続可能なものとするために絶えず進化を追求されています。今回は代表取締役社長の西岡利明氏にお話を伺いました。

#### — 水栓メーカーとして創業 自社による生産体制を確立

当社は1954年（昭和29年）に創業しました。当時はちょうど戦後の経済復興の時期で、同業のメーカーに丁稚奉公をしていた3人が、住宅が増えてきたのを見据え、バルブや水栓は今後水道に必ず必要な物と考え、独立を決意しました。

当初は工場がなく、モノづくりは協力企業にお願いし、商品の企画・設計・販売をするというスタイルでした。品質管理にワンクッションあるので、モノづくりの拠点をもちたいと考えていました。そうした時にバルブや水栓を作っていた工場で後継者がいなくなり廃業されると聞き、その工場を譲り受け生産拠点としました。ただ、一貫生産ではなかったため铸件がふけません。铸件は布施（東大阪市）にある協力企業にお願いしていました。

鑄造工場を持ちたいということになり、水栓の発祥の地と言われている岐阜県に工場を作りました。1980年のことです。大阪に比べて土地が安いこと、地理的に水と砂が豊富でした。こうして鍍金以外を一貫で作れる会社になりました。

その時から役割分担を持たそうと岐阜で大ロットの商品、大阪では小ロットの商品を作るようにしました。岐阜では、最後の工程に鍍金があるの

ですが、その表面処理の工程も一貫で行えるよう大伊木工場を1995年に作りました。今も稼働している鍍金工場になります。これで本当の意味で晴れて水栓メーカー、いちから一貫して作れる工場ラインができあがったという形です。



岐阜工場

#### — 「点」としての始まり 水栓は生活との「接点」

一貫生産ができて、水栓メーカーとしてある程度認知度があがってきました。

蛇口から出る水に不具合が起こった場合、ほとんどの方が水道局にクレームを入れます。ところがボーダー（資産の境目）があり、水道メーターまでのインフララインはその地方の自治

## 手間を惜しまず、妥協を許さず、常に最高を！



日本初のシャワー付き湯水混合水栓を1967年に製造販売。国内の各世帯に内風呂が普及していく中で時代を先駆けるヒット商品となりました。



洗面混合栓（壁出）、バス用サーモシャワー混合栓とともに、水栓の既成イメージを払拭するフォルムで、ティッシュボックスや収納用棚などとデザイン・サイズを統一。必要なものを自由にカスタマイズできるmorfa（モルファ）シリーズ。



音声認識システムAQUVOI（アクボイ）を搭載し、音声により操作できる水栓。市販のスマートスピーカーGoogle Home及びAmazon Echoと連動させることで、音声により吐水・止水や定量止水が可能です。

体の管理になります。水道メーターから蛇口までは各家庭個人の資産になります。メーターまでのところに不具合があれば、水道局の責任で改善あるいは補修をしてくれますが、メーター以降に不具合があった場合、水道局は管轄外です。各家庭で直さなければならなくなり、次にクレームを入れるのが水栓メーカーになってくるわけです。

### — 「点」の時代から 「線」の時代へ

ボーダーが水道メーターにあるのであれば、水道メーター以降から蛇口までを我々SANEIがトータルに供給することによって、安全な水を安定的に流せるラインが完成するのではないかとすることで、蛇口だけを売るメーカーから、蛇口の手前の配管までを含めてご提案するメーカーになりました。

水に不具合があればSANEIに問題があるか、もしくは浄水場に問題があるか、判別しやすくなります。

水を出し止めする水栓が「点」ならば、水の通り道であるライフラインは「線」です。最終の水の提供口である水栓にとどまらず、建物内の給水・排水の環境をトータルにプロデュースし、より強固なブランドにしようと考えています。

### — 「線」の時代から 「面」の時代へ

2018年になりますが、榊三栄水栓製作所から社名を変更しました。いかにも水栓を作る専門のメーカーの名前でしたが、インフララインも含めて提案するという事になった時に、今後水栓がコアな商品としては変わりませんが、そこからもっと商品を派生させないといけないということで「水栓製作所」をとりました。

同時に日本の水は飲料水として飲めますが、水に困っている地域はいろいろあります。今後は世界を視野に入れて、海外で認知されつつある名称との統一を図り、ローマ字でSANEI株式会社としました。

このように商品を派生させることによって、見た目の意匠の部分と機能・性能としてどうあるべきかを我々が提案できる土壌ができてきました。

家の品質としてのところは給水メーカーである我々が提案するというのが本来の姿です。これが非常に建築担当者や設計者の方に受け入れられました。

最終的に住まわれる方が豊かで快適な生活をできるシーンを提案するというのが一番大きな目標です。空間「面」に対してどうあるべきかを提案していくメーカーに進化しました。

### — 時代に寄り添った商品を

昨今、手を触れなくてもいいセンサー水栓やレバー式水栓の需要が増えました。幼稚園や小学校、駅などの公共機関のトイレまで水栓を変えています。

さらに住宅で水回りの箇所を玄関などに一か所増やそうという動きもあります。住宅というのは、本来その家の中で住む人が安全で安心して住める場所であってほしいです。雨風や外敵からは住宅は守ってくれるのですが、目に見えないウイルスは簡単に入ってきます。これが一番大きな課題です。

今提案しているのは、土間を復活させようという試みです。家の外でもない内でもない土間というスペースは、玄関の手洗い場としてだけではなく、適度な距離を保ちながらゲストとコミュニケーションが取れる多目的空間にもなります。

近年のライフスタイルの多様化やグローバルな市場の変化により、お客様のニーズも変化しています。

これからも、お客様に寄り添った商品を提供し続けていきたいと思っております。

### — 貴重なお話をいただき、 誠にありがとうございました